

令和7年12月18日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和7年11月分

～令和7年11月 データから見た業界の動き～

令和7年12月18日 発表

製造業・非製造業をあわせた全体で、すべてのD.I値が低下
物価上昇で需要減少、価格転嫁への対応が課題



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和7年12月18日 発表

製造業・非製造業をあわせた全体で、すべてのD.I値が低下 物価上昇で需要減少、価格転嫁への対応が課題

■概 況

11月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高	▲2 ポイント	(前年同月比 8 ポイント ↓)
収益状況	▲28 ポイント	(前年同月比 22 ポイント ↓)
景況感	▲24 ポイント	(前年同月比 22 ポイント ↓)

となり、すべてのD.I値が前年同月を下回った。

業種別で、製造業では…

売上高	+10 ポイント	(前年同月比 ±0 ポイント)
収益状況	▲30 ポイント	(前年同月比 35 ポイント ↓)
景況感	▲40 ポイント	(前年同月比 30 ポイント ↓)

物価上昇が家計を圧迫し消費者の節約志向が一層強まる中、ジュエリー製品製造業や織物業などの地場産業を中心に需要減少を訴える声が多く寄せられた。一方で、「季節商品であるクリスマスケーキ（特に小さいサイズ）の予約注文が昨年に比べ1割増と順調（菓子製造業）」「防衛関連やAI関連の受注が増加（電気機械器具製造業）」など、季節需要や特定分野において一部明るい兆しのコメントもあり、売上高D.I値は前年同月と同水準となった。

収益状況では、「2026年1月より材料費・工具費などの値上げが確定しているため、価格転嫁をどのように実行していくか早急に対応策の検討が必要（電気機械器具製造業）」「人件費や燃料費高騰への対応が求められ、更なる値上げや関係業界への要望活動を進める必要がある（山砕石）」など、製造に係るあらゆるコストが高止まりする中で、事業者は引き続き、価格転嫁を実現するための具体的な対応を模索している。

一方、非製造業では…

売上高	▲10 ポイント	(前年同月比 13 ポイント ↓)
収益状況	▲27 ポイント	(前年同月比 14 ポイント ↓)
景況感	▲13 ポイント	(前年同月比 16 ポイント ↓)

「物価高騰の影響で来街者数、個店の売上ともに減少（商店街）」を例に、製造業と同様、物価高騰に伴う消費活動の停滞に苦慮する報告が多く寄せられた。また、観光関連業種からは日中関係の悪化を背景とした中国人観光客の減少が報告されたほか、建設業では「仕事量は減少傾向にあり会員間での融通も難しく、来年度も増加は見込めない（鉄骨・鉄筋工事業）」とのコメントもあり、非製造業全体として先行きに対する慎重な見方が強まっている。

また、「暫定税率廃止による燃料価格の引き下げに伴い、タンクに残る高値仕入れ在庫の影響で損失が発生している事業者もある（ガソリンスタンド）」「金の価格が一日で500円／g以上変動することもあり、製造タイミングの判断が難しく在庫減少にもつながっている（ジュエリー製品卸売業）」など、原材料価格や仕入価格の急激な変動によって、収益確保や在庫管理に苦慮する事業者の報告もあった。

12月から山梨県の最低賃金が1052円に改定された中、「国が求めるような賃金アップができない（商店街）」を例に、業種を問わず、賃上げの原資確保が課題となっている。

こうした状況を踏まえ、中央会では、賃上げ原資の確保に向け経営改善や生産性向上に取り組む中小企業等を対象として、専門家派遣に係る謝金を助成し、コンサルティングを通じて課題解決を支援する事業を実施しています（事業期間：令和8年2月末まで）。そのほか、経営課題に対する専門家派遣や講習会による支援も行っています。事業活用を検討する際はお気軽にご相談ください。

業界からのコメント

● 製 造 業

食 料 品 (水産物加工業)	原料からギフト関連商品まで各部門で安定しており、前年同月と比べ売上は104%となった。季節商品のおせち料理（アツビ）は10月から注文が増加し、11月には大口受注も入るなど順調に推移している。
食 料 品 (洋菓子製造業)	前年同月と比べ売上は94.6%と減少し、チョコレート、イチゴ、玉子など主要原材料の価格高騰が続く中、収益状況も悪化している。一方で、季節商品のクリスマスケーキは予約注文が順調で、昨年からラインナップに加えた小さいサイズ（11cm）のケーキは、昨年に比べ予約数が1割増となっている。
食 料 品 (酒類製造業)	酒類離れが進み長期的には販売数量の増加は見通せない状況である。全体として生産量の減少が見込まれるものの、今年は天候に恵まれ品質の良いブドウが収穫できたことから上質なワインの生産が可能となり、販売数量の改善が期待される。
繊維・同製品 (織 物)	物価上昇が家計を一層圧迫しており、消費活動における節約志向は依然として根強く、業況は厳しい。
繊維・同製品 (織 物)	富士みちを中心に織物とアートを楽しめる「フジテキスタイルウィーク」がスタートした。かつて繊維産業が最盛期を誇った時代の工場や問屋などを活用し、地域産業の記憶を継承するとともに、新たな創造的な視点を取り入れることを目的としている。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上は13.7%増加したが、一時的なものとみられ、仕事量は依然として低調である。
窯業・土石 (砂 利)	昨年度より平均20%程度の値上げを行っている。売上は早川地区を除いて低調で、景況感は全体的に低迷している。
窯業・土石 (山砕石)	前年同月と比べ売上は6%増加した。一方で、人件費や燃料費高騰への対応が引き続き求められており、更なる値上げの検討や関係業界への要望活動を進めていく必要がある。
一 般 機 器 (業務用機械器具製造業)	業界全体では引き続き半導体関連・設備関連が伸び悩んでおり、前年同月と比べ景況感は▲20%となった。11月は売上が3%増加（前年同月比）とやや持ち直したものの、物価高騰が続いており来年の先行きも不透明である。
電 気 機 器 (電気機械部品加工業)	半導体業界を含む一般産業機器全体で製造受注が低調であり、前年同月と比べ景況感は▲30%となった。一方、秋以降は防衛関連やAI関連の受注が増加している組合員もあり、受注状況にはばらつきがみられる。 中国との関係悪化により来年以降の受注への影響が懸念されるほか、2026年1月より材料費・工具費などの値上げが確定している。こうした外部環境の厳しさを踏まえ、価格転嫁をどのように実行していくか、早急に対応策を検討する必要がある。
宝 飾 (研 磨)	地金の高騰により取引先の製作本数が減少しており、前年同月と比べ売上は▲30%となった。

● 非 製 造 業

卸 売 (ジュエリー)	宝飾業界では材料のほとんどが輸入品であるため、円安の影響が長期化している。金価格も高騰し続けており、製品価格・仕入原価・販売価格が上昇する中、販売数量も減少している。金の価格が一日で500円／g以上変動することもあり、材料比率の高い製品は製造のタイミングが難しく、在庫減少にもつながっている。 年末需要が年々減少しており、若者向けジュエリーでは銀価格の高騰によってステンレス製品の需要が高まっている。また、金価格が高騰していることから、地金製品は資産価値を見込んだ購入が増加している。
小 売 (青 果)	ブドウは比較的安値で推移し、柿（甘・渋）は豊作により入荷量が多かった。 漬物用の干し大根は高値のまま今季の取扱いが終盤に入っている。 県内産野菜の入荷が増え始めている。
小 売 (電気機械器具小売業)	11月の売上は前年同月比▲4.3%、4月以降の累計では前年比▲5.3%となった。夏場のエアコン需要の低迷が累計の売上減少の要因とみられる。一方、11月はエアコン・冷蔵庫が前年を上回る推移となった。

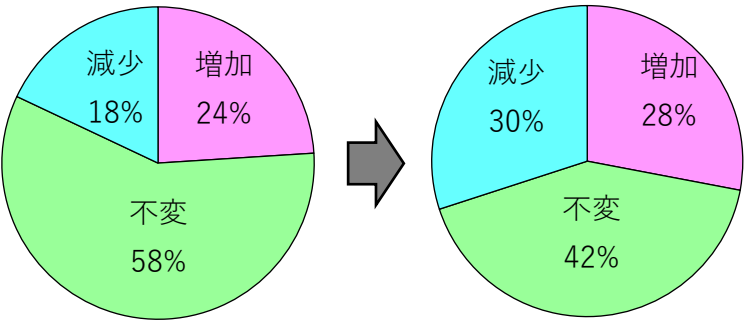
小 売 (事務機小売業)	前年同月と比べ売上・景況感ともに▲70%となった。県内企業で買い控えの傾向があり、業界全体が低迷している。
小 売 (ガソリン)	暫定税率について、ガソリンは12月31日に、軽油は来年4月1日に廃止される。廃止に伴う市場小売価格の急変動を抑えるため、現在交付されている定額補助金（10円/ℓ）が段階的に5円ずつ拡充され最終的には暫定税率と同額となり（ガソリン25.1円、軽油17.1円）、価格は暫定税率廃止後と同水準まで引き下げられる。 11月は13日と27日に補助金の拡充が実施され、市場小売価格も段階的に低下している。そのため、SSによっては地下タンクに残る高値仕入れ在庫の影響で損失が発生している。また、価格低下に伴い売上が縮小し、資金繰りへの懸念も生じている。
商 店 街	前年同月と比べ収益状況は▲10%となった。物価高で利益確保が一段と難しくなっており、国が求めるような賃金アップができないのが実情である。
商 店 街	物価高騰の影響で来街者数が減少、個店の売上も落ち込み、前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲7%となった。加えて、大月駅周辺に有料駐車場が乱立している影響で組合が運営する駐車場の利用者也減少している。
宿 泊 業	秋の観光シーズンでビジネス客・観光客の利用が多く、休前日だけでなく平日も満室の施設が目立ち、高い稼働率で推移した。冬休みに向け、さらなる観光客の増加が期待される。
宿 泊 業	中国からの訪日客が減少している。
一般廃棄物処理	広域ごみ処理センターに搬入される可燃ごみの中に不適物（特に針金・梱包用金属製バンド類等）が混入しているケースが多く、助燃材費用の高騰やセンターの操業停止を招く事態となっている。除去処理が長期化した場合は、ごみ搬入停止に至る可能性もある。混入物の種類や発生時期が一定していることから故意の可能性も否定できず、許可業者だけでなく一般市民も搬入できる仕組みであるため、不正搬入の防止に苦慮している。
警 備 業	契約金額が労務単価に見合う水準へと徐々に改善されてきており、販売価格も上昇している。
建 設 業 (総 合)	11月の県内公共工事は前年同月比で件数は▲13.7%、請負金額は▲9.6%と減少した。11月末累計でも、件数は▲4.8%、請負金額は▲0.8%といずれも減少した。
建 設 業 (型 枠)	前年同月と比べ売上は▲15%、景況感は▲20%となった。民間工事・公共工事ともに不調が目立ち、着工予定の工事遅れや仕事量の減少により先行きへの不安を抱える組合員が多い。一方で、材料費の高止まりや人件費の高騰で請負単価を下げることはできない。
建 設 業 (鉄 構)	前年同月と比べ売上・景況感ともに▲10%となった。仕事量は減少傾向にあり会員間での融通も難しく、来年度も増加は見込めない。日本の鉄骨需要量は年間400万トン进行込んで以降、毎年回復に転じることが期待されるも実現には至らず、今年度も370～390万トン程度と予想されている。先行きは依然として厳しく底が見えない状況であり、当県においても同様である。
設備工事 (管設備)	共同購買事業（管材料）の売上が増加しており、特にアパート関連の材料が好調である。
運 輸 (バ ス)	秋の紅葉シーズンではあるが前年同月と比べて旅行者が少なく、売上・収益状況ともに▲10%となった。
運 輸 (トラック)	物価高騰により修繕費・消耗品費等の経費が増加し経営を圧迫しているほか、ドライバーの高齢化など事業継続に影響を及ぼしかねない課題が山積している。こうした状況から、年末商戦で荷動きが活発になる時期ではあるものの、先行きは不透明である。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
対前年・前月・当月	2024年11月	2025年10月	2025年11月	2024年11月	2025年10月	2025年11月	2024年11月	2025年10月	2025年11月
売 上 高	10	▲ 30	10	3	▲ 13	▲ 10	6	▲ 20	▲ 2
収 益 状 況	5	▲ 25	▲ 30	▲ 13	▲ 20	▲ 27	▲ 6	▲ 22	▲ 28
景 況 感	▲ 10	▲ 35	▲ 40	3	▲ 10	▲ 13	▲ 2	▲ 20	▲ 24

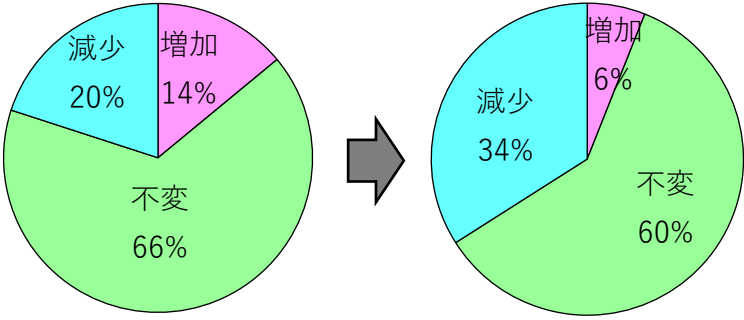
※(（良数値÷対象数）×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売 上 高（前年同月比）



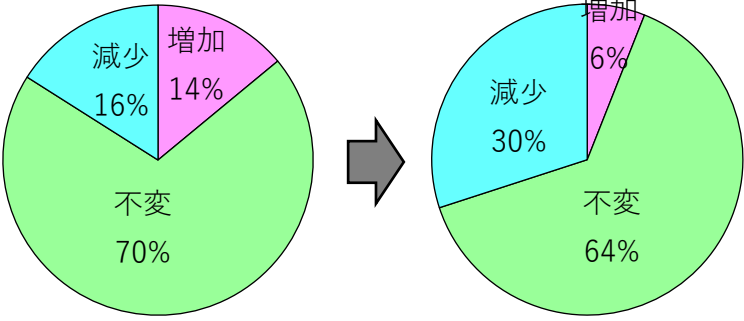
- ・D I 値 ▲2（前年同月比 ▲8 ポイント）
- ・業種別 D I 値
 - 製 造 業 +10（前年同月比 ±0）
 - 非製造業 ▲10（前年同月比 ▲13）
- ・前月比 D I 値
 - 製 造 業 +40
 - 非製造業 +3

収 益 状 況（前年同月比）



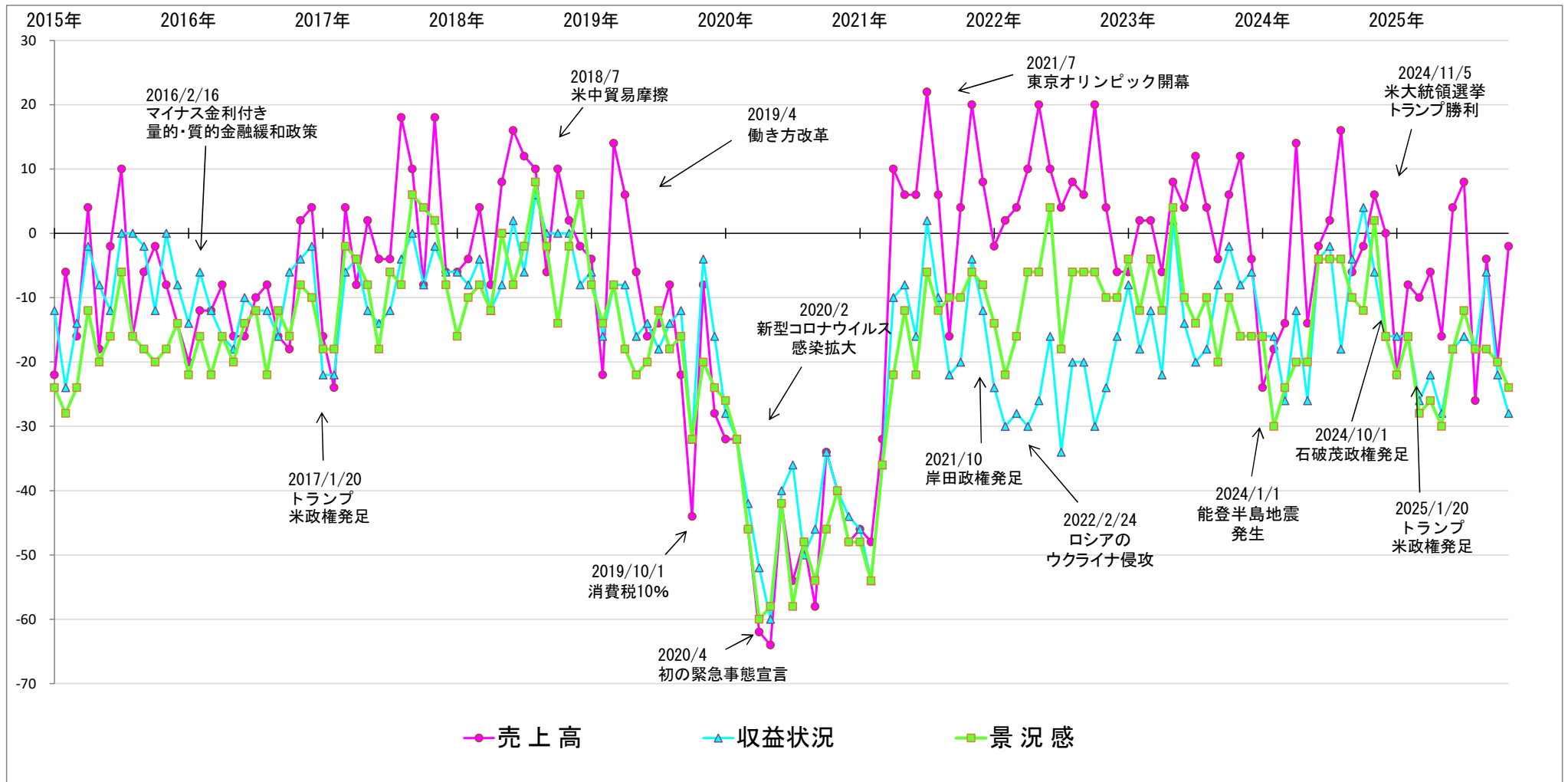
- ・D I 値 ▲28（前年同月比 ▲22 ポイント）
- ・業種別 D I 値
 - 製 造 業 ▲30（前年同月比 ▲35）
 - 非製造業 ▲27（前年同月比 ▲14）
- ・前月比 D I 値
 - 製 造 業 ▲5
 - 非製造業 ▲7

景 況 感（前年同月比）

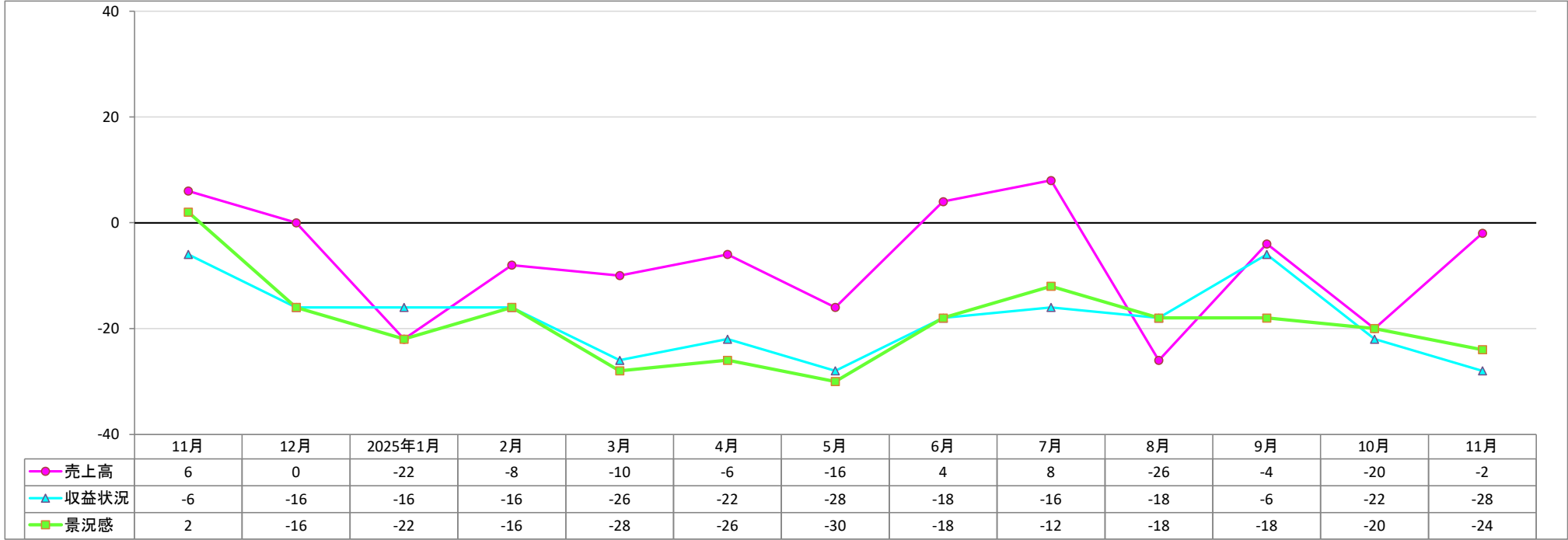


- ・D I 値 ▲24（前年同月比 ▲22 ポイント）
- ・業種別 D I 値
 - 製 造 業 ▲40（前年同月比 ▲30）
 - 非製造業 ▲13（前年同月比 ▲16）
- ・前月比 D I 値
 - 製 造 業 ▲5
 - 非製造業 ▲3

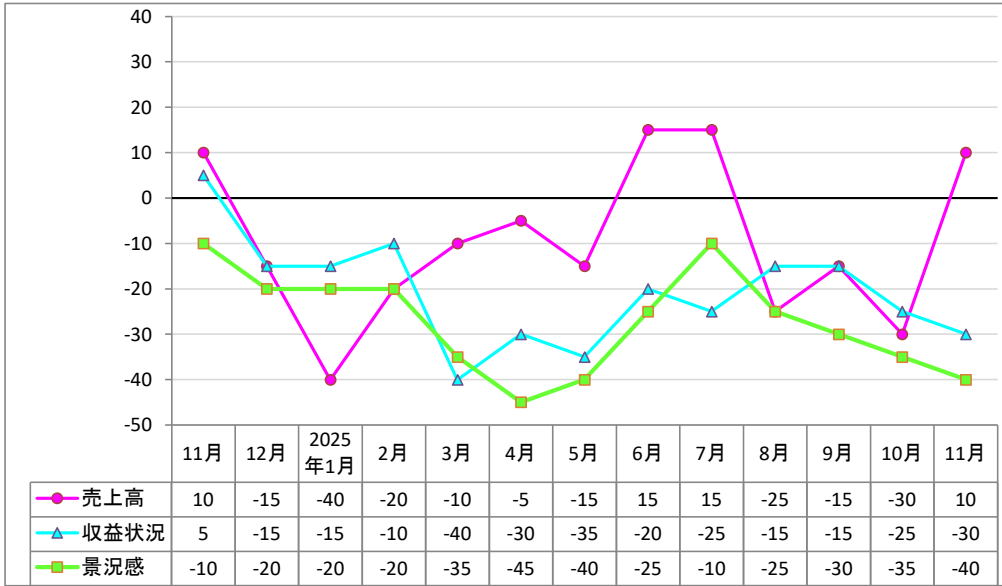
D.I値の推移①(過去10年間) 2015年1月～2025年11月



D.I値の推移②(過去1年間) 2024年11月～2025年11月



【製造業】



【非製造業】

